

令和 8 年度 第 2 回 早島町地域公共交通会議議事録

日時：令和 8 年 7 月 24 日（金）午前 10 時～

会場：早島町役場 3 階 全員協議会室

1. 開会

2. 町長挨拶

◇町長

皆さまおはようございます。本日はご多忙のところ、早島町地域公共交通会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃より本町の公共交通行政の推進に対し、格別のご理解とご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

本日の会議では、地域公共交通計画の基本方針・目標、及び公共交通施策についてご審議いただく予定となっております。基本方針や目標につきましては、前回会議でいただいたご意見を踏まえ、整理した内容をお示ししております。

また、公共交通施策につきましては、町民ニーズの高い中庄方面への移動に関する施策案をお示ししております。中庄方面へのアクセス向上は、通院をはじめとした日常生活の利便性向上につながる一方で、既存の公共交通との役割分担や持続可能な運行のあり方など、さまざまな視点から検討すべき課題もございます。本日は、それぞれの立場から幅広くご意見をいただき、より良い施策となりますようご議論をお願い申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3. 議題

本日、地域公共交通会議にご出席いただきました委員は 15 名中 14 名でございます。過半数の委員の方にご出席していただいておりますので、早島町地域公共交通会議設置要綱第 5 条第 3 項の規定により、本会議が成立することをご報告させていただきます。

会長：では、早速ですが、次第に従いまして、議事を進めたいと思います。次第の 3、議題（1）「ワークショップの開催について（報告）」です。事務局からご説明をお願いいたします。

（1）ワークショップの開催について（報告）

＜事務局から資料について説明＞

◇質疑応答・意見

会長：ありがとうございました。2 回にわたってワークショップをしていただいたということですが、何かご意見、ご質問はございますか。ありましたら、挙手にてお願いいたします。

委員：参加された 11 名の方の年代や居住地域など属性について、差し支えない範囲で教

えていただけますか。

事務局：ご参加いただいた方の多くは町内の方でしたが、1名、町外にお住まいで公共交通の研究をされている方もおられました。年齢層は、平均すると60代中盤から後半くらいかと思います。

会長：他に特になければ、次の議題に進みたいと思います。

次に、(2)「地域公共交通計画（基本理念・基本方針・目標）について」、事務局より説明をお願いします。

（2）地域公共交通計画（基本理念・基本方針・目標）について

〈事務局から資料について説明〉

◇質疑応答・意見

会長：ありがとうございます。前回の会議の中で皆さまのご意見に、ワークショップでのご意見を加えて事務局で再検討していただきました。更に追加すべき点、見直す点がございましたら、挙手にてお願いいたします。

委員：基本方針3、リアルタイムの運行情報提供のデジタルサイネージなどの導入検討について、サイネージは車内に設置するようなイメージですか。それとも別の場所に設置するような想定で考えているのでしょうか。

事務局：現時点で考えているのは、早島駅のデジタルサイネージ、情報発信交流スペースにあるデジタルサイネージを活用して、コミュニティバスの運行などを周知したいと考えております。

委員：コスト的な問題があると思いますが、各バス停にサイネージを設置すると、よりわかりやすく運行状況が把握できるのではないかなと思いました。

事務局：先ほどの資料のリアルタイム運行情報提供のところで、デジタルサイネージの上にバスロケーションシステムの導入を検討すると書いております。こちらにつきましては、皆さまがお持ちのスマートフォンなどでバスが今どこにいるかがわかるシステムとなっております。こういったこともあわせて、先ほどご意見をいただいたことも含めて検討していきたいと考えております。ただ、予算には限りがありますので、そういったところも考慮して検討していきたいと考えております。

委員：基本方針2、広域移動を支える交通体系の構築で、この前のアンケートでも中庄方面への移動手段を希望されるところが非常に多かった原因として、川崎医大や倉敷中央病院への通院がものすごく多いと思います。去年の川崎医大や倉敷中央病院に行っている人数を行政は把握していると思いますので、その数をきちんと出してこのような要望を取り入れるべきだと思います。数字が全然出てこないの、判断のしようがないです。ただアンケートだけで決めてもいいものなのでしょうか。年間どのぐらいの人が、どの病院へ行っているか数字をちゃんと出してほしいなという希望です。

事務局：通院の件数ということで、早島町でレセプト件数を把握しております。外来のレセ

プト件数を見ると全体の受診件数の中で、川崎医大が町外の病院では最も多くおよそ 5%、次いで倉敷中央病院が 4%となっております。その他、倉敷スイトホスピタル、成人病センターなどが続いております。このあとご説明いたしますが、中庄駅や倉敷駅から公共交通でアクセス可能な医療機関として、倉敷駅前の病院などがあり、中庄方面を公共交通の結節点と位置づけて、そこから乗り継ぎなどをして移動していただくことを考えております。

会長： %だと実数がよくわからないのですが、実数はわかりますか。

事務局： 実数については、今すぐお示しできるものではなく、申し訳ございませんが、次回の資料でお示しはできると思います。

会長： ということですが、委員いかがでしょうか。

委員： 実数については福祉課との連携ですぐわかると思います。

事務局： レセプトの外来の実数が出ましたので、口頭ではありますがお伝えいたします。レセプト件数が合計で 8 万 7,900 程度あり、そのうち、川崎医大が 4,422、倉敷中央病院が 3,533 となっております。倉敷スイトホスピタルが 781、成人病クリニックと成人病センターを合わせて 1,135 となっております。

会長： 通院の大体の数がわかってきて、あとはそれがどういう交通手段で行っているのか、アンケート調査でもその割合がわかっていますが、公共交通がないから誰かに乗せていってもらっている、別の方法で、という人もいらっしゃると思います。公共交通を走らせたときにどうなるのか、というところは少し考える必要があるかなと思います。何か追加のご質問やご意見がございますか。

では、次に進みたいと思います。だんだん具体化してくるので、視点が明確になってくるかと思えます。議題の(3)「公共交通施策について」、事務局からご説明をお願いいたします。

(3) 公共交通施策について

＜事務局から資料について説明＞

◇質疑応答・意見

会長： 事務局から中庄方面への運行ルートや運行方法の案をご説明いただきました。今回、皆さまからご意見をいただいて、より実効性のあるものを考えていきたいということだと思いますけども、何かご意見ご質問ございますか。

委員： 3 点ほどお伺いします。公共交通施策をいろいろ検討いただいているのですが、よく分からないところがあるので教えてください。まず、1 点目は、運行車両は 10 人乗りのワゴン車とあるのですが、10 人以上になったらどうするのか。2 点目、早島駅から中庄まで途中のバス停はあるのかどうか。3 点目は、運行ルート案の 1 と 2 がありますが、案 1 の方は川崎医大の方に止まるのかどうか。その 3 点をお願いします。

事務局：1 点目につきましては、ワゴン車で 10 人以上の乗客がいた場合にどうするのかというご質問でした。こちらにつきましては、今後運行事業者との協議にもよりますが、ひとつの案としましては、追従でタクシーを出して対応といったことも考えられると思います。2 点目の早島駅から中庄までの途中のバス停につきましては、実証運行では早島駅と中庄駅のためのバス停を想定しております。そして、3 点目、運行ルート 1 と 2 の違いで、1 の方は川崎医大に停まるのかということでしたが、1 と 2 の両方とも川崎医大には止まらない想定で検討しております。

委員：3 点目、ルートの 1 や 2 は、川崎医大には停まらないと言われたのでしょうか。

委員：中庄駅までで、駅の北側か南側かの違いです。

委員：この地図を見ると、川崎医大に停まるように見えてしまっていますが、そうではなく、1 は北側、2 は南側に停まるということですね。そうすると、今回、中庄駅の方に伸びたらすごく便利だなというご意見の元々は川崎医大も含めての通院と倉敷方面の買い物があると思います。中庄駅の北側でも南側でもどちらでもいいのですが、そこから川崎医大まで行くのは結構距離がありますよね。アンケート結果で、川崎医大への通院はコミュニティバスの利用が 23、タクシー利用が 39 とあったと思います。中庄駅から降りてまっすぐ歩いて、川崎医大のところに入ってから結構距離があるので、利用する人にとっては、本当に利便性があるのかなと思います。せっくなら川崎医大の近くの方に停まる方が良いのかなと私は思いました。

会長：誰もがそう思って聞いていると思いました。この資料でも 19 ページで川崎医大にこれだけ人数が行きたくて、この時間帯に行きたい、帰りたいと書いておきながら、なぜ最後に行かないことになったのか、そのあたりを教えていただければと思います。

事務局：中庄駅を交通結節点として考えておりまして、そこから路線バスや鉄道、または徒歩などにより目的地へ移動していただくことを想定して、この案を作っております。また、病院などに乗り入れる場合、運行時間が長くなる、便数の確保などにも影響するため、まずは、実証運行ではこのシンプルなルートでの運行を基本として検討しました。もう 1 点懸念されるのが、1 つの特定の施設へ乗り入れることになると、他の病院や商業施設などへも同様のご要望が想定されます。今回の実証運行では、特定の施設へ直接乗り入れるのではなく、早島駅から中庄駅の拠点間を結ぶものとして検討したのになります。ただ、ルート案につきましては、あくまでもたたき台のルートとなっておりますので、本日いただいたご意見も踏まえながら検討を進めていきたいと考えております。

委員：地域交通ネットワークなどいろいろ詳しく調べていただいてよくわかりました。ありがとうございます。やはり、経費の問題を前の会議でも申し上げましたが、いくら経費が取れるのかというところです。運行経費の中庄駅の直行便について 34 ページ、町の車両を利用した場合、7 時間 790 万円、ジャンボタクシーを利用した場合、2,000 万円ということで、そもそも町の車両を利用できるのでしょうか。また、ジャンボタクシーの場合の経費 2,000 万円については、早島タクシーさんか澤田交通さんに確認をしていると思いますが、2,000 万円で本当にいけるのでしょうか。それと、運賃 300 円取った場合は、費用は賄えるのかどうか、足りない部分は町が

補助するのか、ということまで考えてこの経費を出されているのでしょうか。

会長：34 ページの概算経費の前提条件を教えてください、ということかと思いますが、でも、事務局の方からご説明をお願いします。

事務局：まず1点目、町の車両を使用した場合にこういった運行ができるかというご質問でした。お金を収受する場合、緑プレートで運行する、いわゆる道路運送法の規定に沿って運行するものと、白プレートでもお金を取って運行できる公共ライドシェアという制度、この2つのパターンがあり、町の車両を使用した形での運行は可能と解釈しております。2点目については、タクシー運賃は法律で認可運賃が決まっております。この認可運賃から計算したものが概算経費となっております。この経費と300円の運賃収受で成り立つのかという点は、公共でやる公共交通施策になりますので、黒字は絶対不可能かと思っております。大きく赤字は出るとは思いますが、他の民間事業者がやらない路線などを公共が担うものですので、そういった面は仕方ないかと考えております。

委員：運輸支局に伺いたいのですが、今回時間制運賃で概算費用が出たと思いますが、例えば早島町と契約を締結した場合に、この時間制運賃、あるいはメーター運賃以外で設定ができるのでしょうか。昔はできなかったと思いますが、今はどうでしょうか。

専門員：タクシー運賃については、先ほど事務局からの説明があったとおり、中国運輸局の方で公示をした運賃をタクシー事業者さんの方で設定いただいて手続きをいただいています。これを勝手に変えるというのは当然できないものになりますので、時間制運賃で設定されているものをベースに経費として積算いただくというのが基本的な考え方になります。

委員：拡大解釈をして地域交通だからといって大雑把にはできず、通常のタクシー運賃で計算するということでしょうか。

専門員：そうです。

実証運行で、路線定期をやりますといったように別のモードで別途運賃を設定することは当然できます。

委員：ありがとうございます。

来年度から実証運行をやりたいということで、運行事業者はどこになるかわかりませんが、中庄駅へのルートで2号線の無津から早島中、そこから北へ行くのが慢性的に混んでいます。2号線以外でも松島線も倉庫ができたり、工事があったりして混んでいます。北口までは時間帯によって、例えば朝の8時台だと50分間かかります。タクシーみたいに迂回もできません。ご提案ですが、4便ぐらいの時間帯から若干混雑が緩和されます。中庄駅南の場合は、帰りも拾えると思います。やはり12時から1時ぐらいの病院からの帰りについてもタクシーを呼んでくださる方が多いです。北口は両備さんと下電さんもいるので少し難しいかもしれませんが、南口だったら倉敷市の土地ですので、当然スペースも十分にありますので、市にお願いをして帰りも早島駅まで直行便があれば利便性が向上するのではないかなと思います。次に積み残しがあつた場合に、タクシー追従ということがありましたが、早島駅と中庄駅に関しては常にタクシーがいますので良いと思います。

- 会長：今、帰りの使い方もご提案いただいておりますけども、事務局何かございますか。
- 事務局：特に渋滞などの時間は我々もどうなるか懸念しているところでありますので、実際の運行につきましてはいろいろとご相談させていただけたらと考えております。よろしく願います。
- 委員：どこへ停車させるかをいろいろ考えられますが、利便性が原点だったと思います。中庄駅が良いのか、川崎医大が良いのか、どれを一番皆さんが希望されているかというのが原点だと思います。それをどのように事務局は考えられて、こういう路線を考えられたのでしょうか。利便性を町民が一番望んでいることだと思います。
- 事務局：利便性の向上というのは確かに大事なものと事務局の方でも思っております。今回、早島駅から中庄駅とさせていただきましたのは、既存の公共交通手段を活用したいという思いで提案をさせていただいております。中庄駅まで出るのが少しご不便ということもあると思いますので、まずは、早島駅から中庄駅まで出ることによって、その先はさらに JR を使って倉敷駅へ出ていただいたり、既存の下電バスさん、両備バスさんなどもご利用いただけます。今ある公共交通手段も利用しながら、交通結節点である中庄駅と早島駅を結ぶということで、まずは実証実験をさせていただければと思ひ提案させていただきました。
- 会長：今日も外歩いたら暑いですね。中庄駅から病院へ行く間に倒れそうな気がします。やはり一番行きたいところの目の前まで来て置いてかれるのは、むしろ不満がたまるとな話になると思います。事務局がおっしゃることは非常によくわかります。あの病院もこの病院もという意見が出るのもわかります。ただ、今回について言うと、特定の病院とどういう話になるのかということもあります。病院側が拒否する可能性もありますが、できれば直近まで行ってほしいというたくさんの声のもとで、今回この議論が始まったのではないのでしょうか。もちろん、倉敷方面には中庄駅から倉敷駅へ JR を使ってという使い方をしていただいても構わないのですが、ただ、今回の資料の数字を見させていただいても、川崎医大への希望が非常に強いので、本当に使う人がいるのかどうかという実証実験を考えていただいてもいいのではないかと思います。事務局で検討していただければと思います。そうすると、北口なのか南口なのかということも変わってくるかもしれません。ただ単に、駅と駅を繋ぐという話と、病院も行くのであればという話が出てくるかと思いますので、そのあたりを考えていただければと思います。
- 他に何かこの件あるいは他の件も含めてご意見ございますか。ここで言わないと何も変わらないという会議です。よろしく願います。
- 委員：ルート案を見させていただいて、中庄駅と早島駅を繋ぐということで理解をしましたが、正直、流通センターとしましては、全くメリットがありません。というのが、今回、通院利用ということで限定されて基本方針を設定されていますが、例えば、通勤利用の需要も調べていただいて、もし需要があれば、途中の段階でコンベックス西、できれば流通会館まで、早島町に在住されて団地内に勤務されている方が多いと思いますので、そういった方も通勤利用できるようなものがもし検討いただけるのであれば、ぜひお願いしたいと思っております。通院だけでなく、通勤もぜひ考えていただければと思います。

事務局：通勤需要ということでご意見いただきました。今回、アンケート調査で通勤需要も少なからずはありましたが、やはり移動ニーズで一番高いのは通院需要というところの数字が出ておりました。そういったこともありまして、今回の実証運行では、通院をターゲットに運行したいと考えております。ただ、今後、実証運行を行い、見直しの段階で、通勤需要も対象にすべきではないかという議論も出るかとは思いますが、そういった段階で検討はしていきたいと考えております。

委員：通院の関係ですが、例えば南岡山医療センターには少し時間はかかりますが、コミュニティバスで病院の前まで行けます。私の知り合いの方も南岡山病院に行く人がいますが、やはり送り迎えがなくても直接病院前に行けるのはすごく便利だと思います。それから、倉敷中央病院や倉敷成人病センターなどは下電バスを使って直接行けるといことが利点だと思います。アンケートも取って、みんなすごく興味・関心を持っていると思うので、やはり川崎医大にも行けるようになると、すごくありがたいものになるのではないかと思います。

会長：ありがとうございます。このようなご意見でございますので、事務局はぜひ検討してください。

委員：今いろいろ例を出してくれて、こういうような方法で、ここへ行けますというのが出ていますが、対象者は大体が高齢者ですよね。高齢者が乗り換えを望んでいるかどうかというのをもう少し考える必要があるのではないのでしょうか。高齢者を対象とした、いわゆる交通弱者に対する交通体系という名目で始まった交通会議だと私は認識しておりますが、乗り換え案がものすごく多く出ており、それが果たして高齢者に向いているかということをもう少し考える必要があるのではないのでしょうか。事務局としては、どの年齢層をターゲットにした交通会議かというのをもう少し慎重に考えるべきではないかと思います。

事務局：ご意見ありがとうございます。周知不足などをご指摘されることもありましたので、わかりやすくと思ってお示しをしましたが、高齢者の方にとっても利用しやすいものは当然検討すべきことだと思っておりますので、ご意見いただきましたことを再度検討させていただきたいと思えます。

委員：混雑する時間の問題で北口の方は難しいという問題はありますが、川崎医大の了解を得れば、病院の敷地の中に入って乗り降りできるのではないのでしょうか。そうすれば、他のバス会社には直接関係ないかと思います。もちろん川崎医大の前にバス停はありますが、中まで入ってぐるっとまわって、中庄駅、帰日も川崎医大の中を通れば、通院される方はすぐ前で降りて、また乗って帰ることが可能ではないかと思えます。

会長：事務局どうでしょうか。相手との交渉もありますので、そう簡単ではないのかもしれませんが、ご意見いただいております。何かコメントあればお願いします。

事務局：川崎医大や運行事業者との調整も必要となりますが、いただいたご意見を踏まえながら、検討を進めていきたいと考えております。

委員：目的地がどこになるのかはすごく重要だとお話聞いていて思ったのですが、逆にどこから出発するかと、途中下車の件も重要だと思います。先ほど事務局からの説明の中に、途中でバス停などを設けて下車はできないことを民間事業者さんと協議さ

れたという話がありましたが、実証実験する中で、途中にバス停が欲しいというような声が上がった場合、どのように対応することを想定しているかを教えてください。

事務局：倉敷市内でのバス停の新たな設置という要望がございましたら、その必要性を事務局で確認して、その後競合する民間交通事業者との協議を経てどうするかを決めていくようになると思います。そこで、新たなバス停の設置は難しいということになれば、設置はできないと考えております。

委員：なぜこういう質問をしたかという、やはり通院利用を主目的とするなら、高齢の方がメインになると思います。そうなった場合に、せっかく中庄駅まで行けるバスが運行していても、そこまでどうやっていくのが問題になると思います。そのあたりのところも、あらかじめいろんなことを想定したうえで、計画された方がいいのではないかなとは思いました。

会長：ありがとうございます。

では、事務局が欲しいなというご意見の中で出ていないものは、運賃と時間帯です。何かそのあたりにつきましてもご意見ございましたらお願いいたします。

委員：交通事業者としての意見となりますが、中庄駅や川崎医大のタクシーはドル箱となっています。中庄駅や川崎医大は、おそらく1日1,000本くらいタクシーが出ています。本日の朝8時から10時前で、うちだけでも70本はありました。越境する場合は民業圧迫にならないようにしないといけません。早島町からのバスが川崎医大に入ることになれば、実証実験の場合でもおそらく他の事業者は反対します。やはり他の交通業者の事業の圧迫には当然なります。前回の会議であったように、とりあえず中庄にいきましょう、そして、財政が豊かになれば他の場所にも行きましようということでしたが、現状を考えると中庄へ行くだけでも素晴らしいと思います。早島駅からタクシーで中庄駅まで行けば2,800円、混んでいたら3,000円かかり、それでも毎日行かれる方もいらっしゃいます。実証実験をして本格運行するのであれば、実証実験の時点で幅広くしてしまうと事業者が困りますし、最初からあれもこれもとってしまうと長く続きません。実証実験については、中庄駅だけであれば、ということで今は他の事業者から理解を得ていますが、川崎医大への乗り入れは渋られると思います。中庄駅に行くだけでも良い話だと思います。毎日、川崎医大や倉敷スイートホテルなど1日5,000円から6,000円かけて行く方もいらっしゃいます。タクシーチケットが未来永劫にあるわけでもないですし、中庄駅直行便をたたき台にして、問題が出れば都度対応していけば良いと思います。せっかく中庄に行くなら川崎医大などに行って欲しいとのご意見もよくわかりますが、時間と費用の制約があります。中庄駅以外の乗り入れの件は、今後の懸案事項にしてもらえると運行事業者としては助かります。

会長：ありがとうございます。事業者としてのご意見を承りました。一方で、利用者のご意見というのもあって、その間でどう落としどころを作るのかということだと思います。事務局の方で検討していただきたいのは、利用者としては明確な意見がある、事業者としてはその制約があるという中で今回の実証実験でどこまでいけるのか、本格運行をどこに見据えるのかということを検討していただければと思います。

す。実際、中庄駅から川崎医大までタクシーも使っていらっしゃる方もいるだろうけれども、そのタクシーを使っている方は本当に今回の直行便に乗る方なのか、つまり違うお客さんのような気がしていて、それほど影響はないのではないかと思います。そのあたりも検証してみないといけないということだと思います。

委員：中庄までの話を議論されましたけど、今の基本方針のところで効率的で利便性の高い町内交通の形成というところで、小型車両など新たな交通手段の活用とありますが、コミュニティバスを今後も大きなバスで運行するかどうかについての話が出なかったので並行して検討すべきではないかなと思います。

会長：車両のサイズの話もありましたが、何か事務局ございますか。

事務局：基本方針のところに小型の車両を検討するといったところのご意見につきましては、中庄方面の実証運行として、まずは、10人乗りのワゴン車を想定しておりますが、町内の公共交通につきましても、小型化を今後検討していこうかと考えております。次回以降の交通会議で町内の公共交通の改正案をお示ししたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

会長：他に、運賃や時間帯、車両についてのご意見ご質問などございますか。

委員：1点、スライド22の運賃一律300円というところで確認なのですが、例えば一般的な路線バスであれば、1歳未満は無料などがありますが、そのあたりのことは何か検討されていますでしょうか。

事務局：運賃の適用については、資料21ページ、事務局としましては、一律運賃として、わかりやすいようにどなたでも一律運賃としたいと考えております。ただ、このあたりも、先ほどの300円もあくまで有償運行をイメージしてもらうための記載になりますので、事務局案としては特にこの金額に決定というところではないので、このぐらいの運賃がいいのではないかなというようなご意見もいただけたらと思っております。

会長：要するに子供運賃とかが欲しいということですね。

委員：そうですね。先ほど、イトーピアのコミュニティタクシーも6歳未満は無料と書いてあり、ここまですると高齢者についても何歳以上とか、いろんなパターンが出てしまうので、一般的なバスを目安とされるのがひとつかなと思い質問させていただきました。

委員：先ほどの交通事業者さんのお話を聞いて、中庄駅と早島駅とをバスでつなぐのは私もすごく素晴らしいと思います。資料28ページ、両備バスで中庄駅から川崎医大前までのバスがあるとのことですが、中庄駅から川崎医大までが高齢の方は大変かなと思いますが、川崎医大までのバスを使えるならそれはそれで良いと思います。早島町のタクシーチケットは、発着のどちらかが早島でないとの起点じゃないと駄目ですよ。中庄駅から川崎医大へはタクシーチケットは使えないですよ。

委員：使えません。

委員：タクシー代としてはどれくらいでしょうか。

委員：700円ですね。

委員：金額としてそこまで高くないですよ。そういうふうに話を持っていけば、町民も納得するかと思います。中庄駅までの直行便がなければ、普通にタクシーを使うと

しても、タクシーチケットを使うにしても、すごく金額がかかります。お金の面も大事だと思います。

会長：ありがとうございます。タクシーチケットの話、タクシーを使うというお話でした。事務局何かコメントございますか。

事務局：タクシーチケットへのご意見ありがとうございます。タクシーチケットは、早島町からどこかへ行くとき、どこから早島町に戻るときに使えるということになっております。そのあたりも含めて検討させていただきます。

会長：それをやり始めると、際限なしになってしまうので、おそらくできないのではと思います。他に何かございますか。

専門員：2点だけコメントと情報提供させてください。1点目、前回の会議でもコメントさせていただきましたが、今、緑ナンバーか白ナンバーか、そこも踏まえて検討中、倉敷市内の事業者様とも調整中ということだと思っております。緑ナンバーの場合は、許認可の関係を運輸支局様が持っておられまして、白ナンバーの場合は公共ライドシェアとして岡山県が登録権限を有しているという話を前回させていただきました。この公共ライドシェアの正式名称は公共交通空白地有償運送といいまして、緑ナンバーの事業者さんによるサービスの提供が難しい地域において、地域の関係者が必要であるとして協議が整った場合に、適用できるという大前提のところがあります。今、丁寧に倉敷市様とも調整をされていると思いますが、引き続き事業者様の影響なども踏まえて検討いただくというのは大事な観点ですのでコメントさせていただきます。もう1点、前回の会議で会長から市町村の境を越えて行き来している事例があり、その知見を生かせればというご意見がございました。県の方でも病院特化型の事例にはなりますが、一つ把握している事例がありますのでご紹介をさせていただけたらと思います。人口密度や医療機関の立地条件も全然違いますが、奈義町の公共ライドシェアが、津山市の津山中央病院まで片道20分程度かけて運んでいるという事例がございます。こちらが、今年の4月20日から実証運行中です。直行便として、病院特化型で町民の方が使えるということで、病院で降ろして、また、病院から連れて帰ってくるというような状況になっております。利用者は基本的には高齢者の方がほとんどだと聞いております。これがまさに、公共ライドシェアということで、奈義町が実施主体になり、委託は地元の社団法人で就労支援施設などを運営されているところがされていると聞いております。県北で、そもそもタクシー事業者様自体が非常に少ないこと、医療機関も大規模病院である中央病院の利用が非常に多いことを去年から聞いております。ここでも奈義町は、津山市内の事業者さん、津山市さんとも丁寧な調整をされていたと認識をしております。日本原駐屯地があり、国道でまっすぐ津山から奈義に上がっていくような立地になっておりますけれど、そこにも1本軸となるような路線バスが通っております。ライドシェアは路線バスとも並行して走るようになっておりましたので、先ほどご説明ありましたが、路線バスの利用者さんを取ってしまうと運賃収入が減るということもありましたし、県の補助対象路線でもあるので、輸送の要件を下回ってしまうと県も補助金を交付できないという事案もありました。一般の利用者からは非常に見えづらいところでも本当にいろんな影響が出る恐れがありますので、引

き続き他の事例も参考にしながら検討いただけたらと思います。

町長：ありがとうございます。今の奈義町のライドシェアは、運賃体系はどのようになっているのでしょうか。

専門員：片道1乗車300円となっております。15キロで、かかる時間が20分から30分程度です。もう一つ、早島町さんが示していただいている案と少し違うところが、2日前までの電話予約が必要というところです。奈義町内については、デマンド形態なので、お家に直接お迎えに上がって、奈義町から出るときは国道をまっすぐ走って津山中央病院まで輸送されるというような形態となっております。津山市内の停留所はございません。

会長：県内でも似たようなことを検討しており、私は奈義町の会議にも参加しているので、何となくそうだなと思って聞いておりました。やはりこの会議の中で合意できるかどうか全て、その後事業者との交渉という話なのですが、ここでやはり意見が出ないとどうしようもないという話でございます。特に運賃、時間帯、車両のサイズについて、他にそれ以外の視点でも構いませんが、何かございますか。

専門員：運行形態とはまた違うところでコメントさせていただきます。先ほど、緑ナンバーにするにせよ、白ナンバーにするにせよ、町の負担は必ず出るのかというお話がありました。県としても、市町村向けの補助制度を用意しております。その中で実証運行のメニューも設けておりまして、町の委託料などを補助対象経費にさせていただいておりまして、実証運行期間の最大12ヶ月は県の補助が出るようになっております。補助率については2分の1で、上限が250万円の補助制度です。来年度以降も財政課には要求をして確保していきたいと思っております。また、今回計画を策定されて、計画に基づく中庄方面の実証運行の検討となりますので、先ほど申し上げた補助率は、一般の補助率よりも、上乘せしたものになっております。しっかりと活用いただけたらと思っております。

会長：ありがとうございます。

1つだけ確認なのですが、資料29ページの乗合タクシーは倉敷市が実施しているのですが、倉敷市民以外の方も利用可能ですよね。

オブザーバー：イトーピアのコミュニティタクシーについては、市外の方でもどなたでも利用が可能です。また、利用料金300円で運行をしていますが、10月1日から、運行維持を目的として、運賃を400円に値上げする予定です。バスの運賃よりは高いですが、一般のタクシーよりは少し安く使っていただけるということで、運用を続けていこうと思っております。

会長：ありがとうございます。倉敷市から来ていただいておりますので、そのあたりの情報も入れていただけますので非常にありがたいです。倉敷市民以外も使っていいとのことですので、ぜひ活用していただければということです。

さて、他に何かございますか。特に新しいご意見がなければ次に行きたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。では、本日たくさんのご意見がありましたので、事務局での検討をお願いします。

では、次に4「その他」ですが、何かございますか。事務局何かございますか。

4. その他

◇事務局

次の開催は、10月26日の午前10時から2時間程度を予定しております。場所は早島町役場3階全員協議会室です。お忙しいとは思いますが、ご出席をお願いできればと思います。

◇会長

他に何かございますか。

◇委員

資料29ページ、イトーピアのコミュニティバスしあわせ号のところで、例えば早島町のコミュニティバスでイトーピア近くまで行って、そこからしあわせ号で川崎医大まで行くのが、時間帯で合うような方法がありますでしょうか。コミュニティバスとしあわせ号を利用して、300円で川崎医大まで行くのも1つのルートなのかなと思いましたが、そのあたり事務局は何かございますか。

◇事務局

イトーピアのコミュニティタクシーと早島町のコミュニティバスは接続を前提として運行はしてはいないですが、イトーピアに9時8分着のコミュニティバスがありますので、こちらで乗っていただければ、少し待ち時間はありますが、9時半のコミュニティタクシーに乗って中庄まで行くことが可能となっております。8時半と13時半の便で行きたい場合は、30分程度の待ち時間が発生してしまいますが、乗車は可能となっております。イトーピアのコミュニティタクシーは予約を前提とした乗車となっておりますのでそこは要注意かと思います。

◇会長

工夫の範囲内かもしれませんが、待ち場所の問題もあるかと思います。

◇委員

今日の会議は、基本方針2の広域移動についての話が多かったですが、それ以外の基本方針1の小型車両やダイヤの見直し、基本方針3、4などは、次回10月の会議には案が全部出のでしょうか。

◇事務局

公共交通計画を作っていくという流れの中でこういった会議を実施しておりまして、その公共交通計画の素案を次回の会議でお示ししたいと思います。その中で、基本方針1の、主に町内移動の施策につきましては、次回の会議でもお示しできたらと思います。基本方針3、4の施策につきましては、ここにある程度は明記されているかと思っておりまして、交通計画素案で具体的にお示しをして、ご議論いただきたいと考えているところです。

◇委員

2点ほどお願いがあります。今、南岡山医療センターにはピンクのバスしか行っていません。グリーンバスがなぜ行かないのかいつも問題になっていますので、その検討をしていただきたいです。また、早島駅が新しくなって、早島駅の乗降客をどのように増やしていくかと

いう検討をしていただきたいです。本日、流通センターの方から意見がありましたが、通勤客をどのように早島駅で取り込むか検討をする必要があると私は思います。流通センターの従業員向けの駐車スペースも大変少なくなっていると聞いています。流通センターが早島町へいろいろと寄与していただいていますし、交通形態を考えるうえでは、通勤客の利便性向上と早島駅の利用促進の両方の面から検討する必要があるのではないかなと考えています。事務局としてはそのあたりを真剣に考えていただきたいと思います。

◇会長

大変大事な視点でご指摘いただきました。事務局でまた検討していただいて、今後反映していただければと思います。

◇委員

以前、南岡山病院から中庄駅までの路線があり、中庄だけでなく早島駅からもありました。今思えば、あの形がすごくいいなというふうに思いました。早島から南岡山医療センターで乗り換えて中庄に行くのはよろしくない方法ではあるとは思いますが、その形も一つの方法ではあるなという気はしていました。あともう一つ、早島駅がこの春にリニューアルされて、2番ホームから帰ってくるのも2番ホームに行くのも、エレベーターができて本当に楽になりました。今まで、駅は大変だから使わないという高齢の方もいらっしゃったけど、資料にも記載があるように茶屋町を経由する方法があるということで、以前に比べたらより行きやすくなっていると思います。早島駅を車いすでも利用できるということをしっかり周知していただいて、最大限に利用する方法を考えていけないといけないのかと思いました。最後に、皆さんの議論の繰り返しにはなりますが、越境して自治体が交通路線を作るのは非常に大変なもので、やはり一番考えないといけないのは民業圧迫です。いろいろな理想はありますが、まずは一番難しいところをクリアできる方法で実証実験を行って、その後、改良していくという方法をとらないと難しいのかなという印象を受けました。

◇会長

いくつかご意見いただいておりますので、事務局の方でまた検討材料にいただければと思います。他に何かございますか。

では、進行を事務局の方にお返しいたします。

5. 閉会